

第1学年 生活科 学習構想案

日 時 令和7年10月22日（水）第5校時

場 所 1年1組教室

指導者 教諭 井上 拓海

1 単元構想

単元名		たのしいあきいっぱい（東京書籍 P66～P83）	
単元の目標		(1)自然の様子や四季の変化に気付いたり、遊びの面白さや自然の不思議さに気付いたりすることができる。〔知識及び技能の基礎〕 (2)身近な自然の違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりすることができる。〔思考力・判断力・表現力等の基礎〕 (3)身近な自然を取り入れ自分の生活を楽しくしようとする態度を養う。〔学びに向かう力・人間性等〕	
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①秋の自然とかかわる活動を通して、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付いている。 ②遊びや遊びに使う物を工夫してつくることの面白さ、自然の不思議さに気付いている。	①秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けている。 ②身近な自然を使って、遊びや遊びに使う物を工夫してつくっている。	①秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然を取り入れ、みんなと楽しみながら遊びを創り出し、自分の生活を楽しくしようとしている。
単元終了時の児童の姿 （単元のゴールの姿・期待される姿）		本時のゴールの姿・期待される姿	
身の回りにある秋の自然について、それらと触れ合っ て気付いたことを友達と紹介し合ったり、それらを使っ ておもちゃづくりをして、楽しく秋との関わりを深めよう とする児童。		身の回りにある秋の植物や、それらを使った遊びをオン ラインで他校の1年生と紹介し合い、気付きや感想を積極 的に交流しようとする児童。	
単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）		本時の中心的な学習課題	
みのまわりにあるあきのものと、たのしくふれあうには どうすればいいだろう。		わたしたちのちいきやがっこうには、ほかのちいきやが っこうとくらべて、どんなあきがあるのだろう。	
本単元で働かせる見方・考え方		本時で働かせる見方・考え方	
身の回りにある秋の自然について、知ったり遊んだりし ながら、関わりを深めようとする。		身の回りにある秋の自然について、他地域の1年生との 交流を通じて共通点や相違点を見つけ、自分たちの地域の 秋の様子に気付くこと。	
指導計画と評価計画（21時間取扱い 本時10／21）			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	3	○校庭で、初秋の草花や樹木、虫などの動植物を 観察したり、木の実などを使ってその場で友達 と簡単な遊びをしたりする。 ○夏の頃の様子と比べて、変わっているところを 話し合い、記録カードに書く。	【知①】（観察） ★色や形、においなど、秋の校庭の自然の様子 と、夏の校庭の自然の様子との違いに気付いて いる。 【思②】（観察、ワークシート） 幼児期や日常の経験を思い起こして、秋の自然 の特徴を探している。
二	3	○これまでの活動を振り返り、スズラン自生地で 探すことについて話し合う。 ○ルールやマナーを学びながら学校とスズラン自 生地を往復したり、そこで遊んだり動植物を観 察したりする。 ○活動で楽しかったことや気付いたことを話し合 い、記録カードに書く。	【知①】（発表） ★身近な自然の様子が、夏から秋になって変化し ていることに気付いている。 【思①】（ワークシート） 秋の自然の変化を予想して、夏の自然との違い を探している。
三	3	○秋の自然の中で遊ぶ活動について話し合う。 ○秋の自然の中で遊んだり、葉や木の実などの自 然物を使った遊びを工夫したり、簡単なおもち やをつくったりする。 ○秋の自然の中での遊びを振り返り、気付いたこ となどを記録カードに書く。	【知①】（発表） 季節によって楽しめる遊びが変わるなど、季節 によって生活の様子が変わること気付いてい る。 【思①】（ワークシート） ★秋の自然物を使うと、どんな遊びになりそうか を想像しながら、遊びに使う自然物を選んでい る。 【態①】（観察、ワークシート） 秋の自然と関わりたいという思いをもち、試行

			錯誤しながら、秋の自然を生かした遊びを楽しもうとしている。
四	1 (本時)	○秋の自然の中で活動したことを振り返り、自校や他校の友達と、オンラインを用いて紹介し合う。	【知②】(発表、発言、振り返りシート) ★互いの自然の共通点や相違点を見つけ、自分たちの地域の秋の様子を発表したり、振り返りシートに書いたりしている。
五	7	○秋のおもちゃをつくる活動について話し合う。 ○校庭や公園などで集めた葉や木の実、身の回りから集めた材料を使って遊ぶ。 ○おもちゃや楽器を工夫してつくりながら遊ぶ。 ○自分がつくったおもちゃや楽器を改良したり、つくるおもちゃを変えたりしながら遊ぶ。 ○つくったおもちゃで友達と一緒に遊びながら、もっと楽しく遊べるようにつくり方や遊び方を工夫し、みんなで遊びを楽しむ。	【知①】(観察) いつも同じ現象が起こるなど、自然の中に一定のきまりがあることに気付いている。 【思②】(観察、ワークシート) さまざまな自然物を試しながら比べ、材料を選び、おもちゃをつくらせている。
六	4	○自分がつくったおもちゃで園児と一緒に遊ぶ計画を話し合い、準備をする。 ○自分がつくったおもちゃで園児と一緒に遊びを楽しむ。 ○おもちゃをつくったことや遊んだことを振り返り、記録カードに書く。	【知①】(発表、観察) 自分が遊びを創り出したことで、みんなが楽しく遊ぶことができるようになったことに気付いている。 みんなで創った遊びをする際に、遊びのルールを守っている。 【態①】(発表、観察) ★自分で遊びを創り出す面白さを実感し、これからも遊びを創り出そうとしている。

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)	
身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容 内容(5)「季節の変化と生活」 【知識及び技能】 自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付く。 【思考力・判断力・表現力等】 身近な自然の違いや特徴を見付ける。 【学びに向かう力・人間性等】 身近な自然を取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。 内容(6)「自然や物を使った遊び」 【知識及び技能】 身近な自然を使った遊びの面白さや自然の不思議さに気付く。 【思考力・判断力・表現力等】 遊びや遊びに使う物を工夫してつくる。 【学びに向かう力・人間性等】 みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。	
教材・題材の価値	
本単元は、第1学年における「なつがやってきた」や「いきものとなかよし」、スズラン自生地での自然との触れ合う学習を通して、自然の様子や四季の変化、季節による生活の様子の違いや特徴を見付けていった。そして、見つけた自然を紹介し合ったり、おもちゃづくりをしてみんなで楽しく遊んだりして、自分の生活に取り入れていくことを主眼点としている。この単元は、身近な秋の自然を発見し、季節による変化や地域による秋の自然の違いに気付くことをもとに、意欲をもって学んだり、生活を豊かにしたりしようとする資質・能力を育成するのに適している。	
本単元における系統	
〔1年〕 なつがやってきた 夏の自然との関わりに 親しむ → いきものとなかよし 夏の身近に住む動物に親しむ → たのしいあきいっぱい 秋の自然との関わりに親しむ → ふゆをたのしもう 冬の自然との関わりに 親しむ 〔2年〕 どきどきわくわくまちたんけん 地域の様々な物や事柄、人への関わりを広げる → 生きものなかよし大作せん 自分の思いに合わせて生き物を飼育する → うごくうごくわたしのおもちゃ 身近にある物を使って、動くおもちゃをつくる	

児童の実態（単元及び本時の目標につながる学びの実態）				
■本単元及び本時を学習するに当たって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況（7名）				
学校やおうちで見つけた夏の草や花、虫は何がありましたか。				
草花…あさがお、マリーゴールド、ひまわり、シロツメクサ、ねこじらし、クローバー、すずらん、ドクダミ 虫…だんごむし、毛虫、テントウムシ、あり、バッタ、せみ				
身の回りにある秋を何か知っていますか。				
草花…もみじ、落ち葉 虫…毛虫、ダンゴムシ、あり 体験…保育園で秋の時期にお散歩をした。落ち葉を使って遊んだり、画用紙に貼って絵を描いたりした。				
■生活科の学習に関する意識の状況（7名）				
内 容	とてもあてはまる	まあまああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
① 生活科の授業は好きですか。	7	0	0	0
② 草花や虫を探すのは好きですか。	3	3	1	0
③ 秋は好きですか。	4	2	1	0
④ 見つけた草花で遊ぶことは好きですか。	5	0	0	2
⑤ 自分が見つけた物や遊んだことを発表することは好きですか。	2	0	0	5
■考察				
【資質・能力に関して】 「なつがやってきた」では、タブレットを使って写真を撮ったり、スズラン学習を振り返ったりして、夏の草花や虫をまとめていた。アンケート時に、そのときの学習を思い返し、夏の草花や虫では何を見つけたのかをたくさん話していた。しかし、違う季節の草花や虫のことを話す場面もあり、季節についての認識が曖昧であるように感じる。身の回りの秋についても、夏で見つけた虫と同じものを書いており、秋について詳しく理解しきれていないと感じる。過去に体験した、身の回りにある秋探しなどについて詳しく回答しており、関連させていくことでより具体的に理解できるのではないかと考える。				
【学びに関して】 生活科の学習は全員がとても好きだと答えている。自然との関わりを楽しみながら学習に取り組める児童も多い。しかしながら、見つけた草花で遊ぶことが好きではないと答えた児童が2名おり、草花で遊ぶことにあまり興味がなかったことを話していた。これは、草花との触れ合いで、楽しさや面白さを感じた場面がこれまでの生活で少なかったのではないかと考える。また、全体場で発表することを苦手とする児童が多い。これは、発表に対する苦手意識があり、自分の答えを自信をもって言うことができないことが多いのではないかと考えられる。そこで、日頃から発表の練習に取り組んでおり、1日1回は発表にできるように挑戦しているところである。				

3 指導に当たっての留意点

<校内研修の視点から（児童生徒を学びの主体に据えた授業づくり）>

①学ぶ意欲を引き出す「単元のゴール」や「学習課題の設定」

- ・単元の最初の時間に自分が見つけたいものや調べたいものを紹介し合うことで、本単元でどのような学習をしていくのかを話し合い、身に付けることのできる資質や能力を共有する。
- ・単元のゴールを、「たくさんのあきをして、いろいろなひとと、あきをかじながらたのしくあそぼう。」と設定した。また、本時の学習課題を、「他の地域や学校にはどんな秋があるのだろう？」と設定した。そのことで単元を通してゴールを共有し、秋探しや遊びを通して、理解や秋との関わりを深めるようにする。
- ・鹿児島県の小学校と交流することで、対話的な学びの場を充実させるとともに、児童の意欲を高め、主体的に学習できるようにする。
- ・秋を使った遊びの材料を決め、それらを使ってどのようなおもちゃを作るのかについて、児童が自己選択・自己決定できる場を設け、主体的に学習できるようにする。

②「考える」と「深める」活動の充実

- ・本時で育てたい資質・能力は、「見つけた秋を紹介し合う活動の中から、お互いに見つけた秋を比較し、地域の違いから様々な共通点や相違点があることに気付く力」である。オンラインを含めた対話を重ねながら多くの気付きを見つけるように促す。
- ・夏の自然との関わりやスズラン学習の振り返りを通して秋の自然との違いを見つけ、同じところや違うところなどを比較させる。そして、自由に意見交流できる時間を確保し、対話的な活動を重視した取り組みが繰り返されるようにする。

③「まとめ」と「振り返り」活動の充実

- ・「まとめ」をもとに、3つの視点からシートに記入させ、学習内容の確実な定着を図る。

<人権教育の視点から>

- 困っている児童には声をかけ、必要に応じて、一緒に考える。
- 話を聞く時の姿勢や目線について意識させ、相手のことをよく知ろうとする気持ちを大切にする。また、発表時は発表者へ必ず返事を行い、安心して発表できるような環境を整える。
- オンライン交流では、自分たちが住む場所との違いを明確にして、共通点や相違点を楽しみながら、お互いの地域のよさを感じ取れるようにする。

4 本時の学習

(1) 目標

身の回りにある秋の自然について、他地域の1年生との交流を通じて共通点や相違点を見つけ、自分たちの地域の秋の様子に気付くことができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意点・評価 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)	備考
見いだす 見通しをもつ	5分	1 本時の学習課題とめあてを確認する。 ◇鹿児島の人たちはどんな秋を見つけたんだろう。 ◇同じ物や違う物は何があるのかな。 【学習課題】 わたしたちのちいきやがっこうには、ほかのちいきやがっこうとくらべて、どんなあきがあるのだろうか？ 【見通し】(見方・考え方を働かせて課題解決の方法) オンラインではなしあって、いろいろなあきをしよう。	(「問い」を生み出す手立て等) ●これまでの学習で、どんな秋があったのか、秋を使ってどんな遊びをしたのかを思い返す。 ●両校の環境の違いについて確認し、秋の違いはどんなものがあるのか予想する。 (課題解決に向けて見通しを持つ手立て) ●本時の大まかな流れを時間とともに確認する。 (見方・考え方を働かせて課題解決に向かう方向付け) ●お互いに見つけた秋や秋の遊びの共通点や相違点を見つけてまとめる。	
解決する	30分	2 オンラインで、これまでの活動内容を両校で確認する。 3 両校で見つけた秋や遊んだことを紹介し合う。 ◇ぼくたちは〇〇を使って絵をかきました。 ◇わたしたちは△△を見つけました。色や形は…。 4 紹介し合ったことを整理する。 ◇阿蘇にはないものがあったね。 ◇紹介した遊びの中で一緒にしたいことがあったよ。 5 整理された内容をもとに、気付きや感想を交流する。 ◇阿蘇には〇〇はなかったし、そんなものがあるなんて知りませんでした。 ◇わたしたちが見つけた△△と、鹿児島の□□は色や形が似ているなどと思いました。 6 今後の活動を確認して、オンライン接続を終了する。 【期待される学びの姿】 紹介し合った事柄をもとに、気付いたことや感想を友達に伝えようとする姿。	(対話的な学びへの手立て) ●オンラインで見つけた秋や遊んだことを伝え合い、それらを比較しながら情報を整理する。 (深い学びへの手立て) ●地域の違いから秋のものを比較する時間を設定し、互いの意見を交流しながら、様々な気付きが得られるようにする。 ●学習リーダーの指示や声掛けを中心に、意見交流を行う。また、出た意見を板書にまとめ、話し合いや振り返りに生かす。 (言語活動の設定及び設定の意図) ●「話す」「聞く」場面を多く設定し、友達とのコミュニケーションを通じて、考えを深めていく。 (個別最適な学びへの手立て) ●意見交流の中で伝えたいことを自己選択・自己決定する。 (課題解決に粘り強く取り組もうとするための手立て等) ●机間指導を行い、考えがまとまった児童や困っている児童への前向きな声かけを行う。 【具体的評価規準】知識・技能 互いの自然の共通点や相違点を見つけ、自分たちの地域の秋の様子を発表したり、振り返りシートに書いたりしている。 (方法：発表・発言・振り返りシート) 【到達していない児童への手立て】 ●友達が発表した内容を振り返り、自分では思いつかなかったことややってみようと思ったことを見つけて、話し合いに生かせるようにする。	電子黒板(オンライン、板書や児童を映す) 遊んだ物 記録カード 絵
振り返る	10分	7 本時のまとめを行う。 【まとめ】 わたしたちのちいきやがっこうのあきには、ほかのちいきやがっこうのあきと、にているものやちがうものがあった。 (例) わたしたちのなみののあきには、トチのみ、ワレモコウがあった。 わたしたちのなみののあきには、ちゃいろのおちばがあった。 8 本時の振り返りを行う。 ◇ぼくは、教えてもらった秋を使ってもっと他の遊びをしてみたいと思いました。 ◇わたしは、みんなで他のおもちゃを作って、遊びたいと思いました。	●振り返りシートを活用し、「なみの」の視点から振り返りをする。 ●次時は新たにどんな秋のおもちゃを作るかを話し合い、準備していくことを説明し、今後の見通しを立てる。	振り返りシート

【板書計画】

たのしいあきいっぱい

がくしゅうかだい

わたしたちのちいきやがっこうには、ほかのちいきやがっこうとくらべて、どんなあきがあるのだろう？

みとおし

オンラインではなしあって、いろいろなあきをしよう。

まとめ

わたしたちのちいきやがっこうのあきは、ほかのちいきやがっこうのあきと、にているものやちがうものがあった。

（例）わたしたちのなみののあきには、・・・（子どもの言葉でまとめる。）

かんがえる

みんなのいけん

・●●●●●●●●●●

・□□□□□□□□

ふかめる

にている

ちがう

写真

写真

写真

写真

【ICT活用計画】

- オンライン会議システムを活用し、他校の児童との交流を深めながら、見つけた秋を紹介する。
- 板書を共有するデジタルカメラを使用し、オンライン授業間の板書を合わせて授業を進めていくようにする。
- タブレットを活用し、児童が見つけた秋の写真や絵を提示して、紹介時に使用できるようにする。